

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	館長	館長補佐	係長	記録

【所属名：教育委員会文化振興課（博物館）】
【会議名：糸魚川市博物館協議会 全体会】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 平成 28 年 5 月 29 日

日	平成 28 年 5 月 29 日	時間	14:00 ~ 16:20	場所	フォッサマグナミュージアム 研修室
件名	議題 1 報告事項 1～5 議題 2 協議事項 1 平成 28 年度博物館協議会の活動計画について 2 博物館事業計画（業務係担当分）について 3 博物館事業計画（学芸係担当分）について				
出席者	【出席者】 7 人 専門部会 梶座副会長 天野委員 大塚委員 松岡委員 運営部会 伊藤会長 池田委員 赤野委員 【欠席者】 3 人 運営部会 渡辺委員 野本委員 中村委員 【事務局】 博物館 宮島館長 竹之内館長補佐 小野業務係長 古平主査				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	0 人

会議要旨

<p>1 開会（14：00） 宮島館長あいさつ</p> <p>2 自己紹介 委員並びに事務局自己紹介</p> <p>3 議題 （1）報告事項</p> <p>【事務局】 報告事項 1～5 を資料に基づき説明する。</p> <p>【委員】 公表印刷物のなかで、「とっておきのヒスイの話 5 版」が出されたが、それ以前の 1-4 版とはどんな関係か。</p> <p>【事務局】 4 版に新しく入手できたヒスイ研究者の調査写真を加えて刊行したものであり、シリーズものではなく改訂版という位置づけだ。</p> <p>【委員】 「ヒスイってなんだろう」と「とっておきのヒスイの話」とはどんな関係か。</p> <p>【事務局】 前者が平易なもので入門書、後者がやや詳しい解説書になる。売り切れれば改訂して印刷となっていく。</p> <p>【事務局】 新潟大学の学生・院生には、糸魚川市が開催している子ども大会（亀が丘体育館）で、化石のレプリカづくりをしていただいている。会場をフォッサマグナミュージアムに移</p>
--

すことはできないか。

【委員】 今年は120人ほどの子どもの来場があり、会場の広さとしては手一杯であった。学生・院生が7-8人で対応している。検討したい。

【委員】 調査研究活動の欄に、5月の連休に実施した糸魚川市と新潟大学の共同地質調査がある。この中には、先の子ども大会の化石レプリカづくりも含まれているので、おもしろミュージアムの実績にも入れておいてほしい。

【事務局】 了解した。

【委員】 世界ジオパークになってから入館者に外国人は増えたか。

【事務局】 欧米系の外国人は増えている。アジア系の外国人は話す言葉を聞きながら外国人かどうか判断している。外国人入館者をカウントできないか検討する。

【委員】 世界ジオパークになればなんらかの外国人対応を考える必要があるのではないか。

【事務局】 展示リニューアル後は、パネルなどの解説文は日本語と英語の併記になっているので、英語圏には対応できている。先回の世界ジオパークの再認定審査では、多言語の表示について強い改善要求はなかった。審査員は、外国人は急激に増えるわけではないので、徐々に進めていくようにというアドバイスであった。スマートフォンなどを使った多言語対応は将来的に必要であると思っているので研究していきたい。

【会長】 地元の学校教育や外からの教育旅行の対応でたいへんだと思う。

【委員】 糸魚川中学校はじめ、ミュージアムでいろいろ対応していただき感謝している。

【会長】 新潟大学との共同地質調査について具体的な中身を教えてほしい。

【委員】 糸魚川-静岡構造線より西側の古い地層で、系統的に恐竜化石調査を行っている。西側の古い地層での化石調査はめずらしいことだと思う。

【事務局】 大学と学芸員の共同調査によって学芸員の個人研究も進んでいくと思う。

【委員】 いずれは学生・院生は卒業や修了していなくなってしまう。データや資料の整理保管を学芸員にやってもらえるので良い協力連携となっている。

【委員】 新潟大学からみると、この共同調査はどのような位置づけなのか。

【委員】 糸魚川市と新潟大学とは包括連携協定を結んでいる。単発的な調査ではなく、目的がはっきりした研究活動である。

【委員】 博物館の調査研究や教育展示などの成果はたびたび新聞に掲載されていると思うが、その頻度や内容についても実績として報告いただくとありがたい。

【事務局】 了解した。

(2) 協議事項

【事務局】 平成28年度博物館協議会の活動計画について説明。
一同了承。

【事務局】 平成28年度事業計画、活動計画(業務係担当分)について説明。

【委員】 マスコミで取り上げられた記事・話題も報告願いたい。

【事務局】 新聞記事等に掲載されたものは勿論。
取材、テレビ、ラジオ出演やプレスリリース等も報告していきたい。

【事務局】 平成28年度事業計画(学芸係担当分)について説明。

【事務局】 日本地質学会指定の新潟県の石には、県の岩石と県の化石の二つが糸魚川から選定され

た。市の定例記者発表でも情報提供を行った。多くのメディアから取り上げていただき良い宣伝になったと思う。ミュージアムのロビーで早速展示を行った。新潟県が指定する県の石にも取り組んでいきたい。

【委員】 新潟県が指定する県の石の取り組みはすすめてほしい。

【委員】 県の石は新潟県を問わず、広い視野で取り組んでみてはどうか。

【事務局】 新潟県糸魚川地域振興局と県の石の指定について意見交換を行った。振興局長から、ヒスイは「日本遺産」のカテゴリにも該当するのではないかという意見をいただいた。ヒスイはかつて北海道から沖縄まで広がった石であり、十分、日本遺産の資格があるのではないかと考えている。

【会長】 学芸員が館長になることで、学芸業務が手薄になるのではないか。

【事務局】 この4月から新しい学芸員が着任し、さらに、館長は時間があれば学芸業務に当たっているの、人的には強化されたと考えている。

【委員】 長者ヶ原考古館とミュージアムでは活動の連携はあるか。

【事務局】 共通入館チケットはあるが、行事などで連携することはあまりない。

【委員】 自然系と埋文系でコラボできないかと思っている。どうやったらコラボできるか考えておけばどうか。津波堆積物や液状化などは埋蔵文化財の発掘で明らかになることがある。接点を考えてみてはどうか。

【委員】 考古系と自然系が何か事業を一緒に予算申請できないか。実現しやすくなるのではないか。

【事務局】 予算の出所が違うが、なにができるか相談してみることはできる。

【委員】 新しく入った学芸員の育成が大事だ。博士の学位をとるだけではだめで、教育計画が必要だ。

【委員】 博物館同士の資料の貸し借りをを行っていることと思う。その貸出リストの報告を次回の委員会から資料として出してほしい。

【事務局】 了解した。

【委員】 フォッサマグナパークの巨大枕所溶岩から河畔の枕状溶岩まで遠いので、近道の遊歩道があったらよいのではないか。

【事務局】 フォッサマグナパーク保存活用計画検討委員会に、そのような意見があったことを伝える。

【委員】 資料末尾に糸魚川市博物館協議会委員の名簿がある。私の所属を、信州大学総合人間科学系としてもらいたい。

【事務局】 了解した。

6 閉会

以上